

# 新年のごあいさつ



美郷町長

## 松田 知己

新年おめでとうございます。町づくり元年の平成十七年が色々な思いを積み重ねて幕を閉じ、新たな期待と意欲を混交させて十八年の幕が開けました。皆様には、清々しさをもってこの一年に思いを回らしているものと存じます。私も、無我夢中の昨年を総括し、更に大きな意味を持つ十八年に新たな計を立てているところです。

さて昨年は、約三十二億の収入不足で苦慮した予算編成や各種制度の調整から始まり、特別職の配置、町民の心の拠り所としての「町の木、花、鳥、魚」や町民憲章の制定、そして町づくりの根幹「美郷町総合計画」などを策定した年でした。その間、農業委員選挙や町議会議員選挙で新たな体制が固まり、総じて、町づくり元年として方向づくりや体制づく

りに歩みを重ねた年でした。

一方、合併の現実を実感した年でもありました。「合併したら・・・」という声もいただきました。しかし、合併は変化を前提にしております。その上で、その変化がすべての分野で高い（プラス）方向に向ければ財政破綻です。プラスとマイナスで変化のバランスを取り、身の丈に合わせるかなければ将来に禍根を残します。また、財政的な合併効果は徐々にしか生じてまいりません。この度、町で再び乳幼児医療費無料化を実施するのも、こうした効果で財源捻出に見通しを持ったからです。皆様には、改めてご理解をお願いいたします。

こうした状況を引き継ぐ十八年は、まずは一層の調整促進に努めます。進むべきレールにしっかりと乗

せなければなりません。その結果、皆様には変化への許容をお願いすることもあります。その許容が町づくりの将来展望につながるものと思えますので、よろしくお願いいたします。財政的な合併効果に大きい影響を持つ公共施設の整理統合も検討が必要ですが、これまでの経緯も踏まえながら、そのあり方を検討、調整してまいります。

その上で十八年は、地域融和への取り組みを一層強化してまいります。また、美郷の誇る水環境の保全に留意するとともに、少子高齢化を踏まえたボランティア活動を促進するほか、食育など農業地域として「食」を大切にしたい取り組みにも努めてまいります。さらに農業振興及び商工業振興の一環として、農・商・工の連携した取り組みにも意を払ってまいります。

いずれにしても、「今を生きる私たちは未来を創る」ことを認識しながら、勇気と渾身の力をもって今求められる課題解決に、そして「心」を大切にしたい町づくりに努めてまいりますので、どうかご理解とご協力をお願いいたします。

皆様に取りまして躍動の十八年となりますことをお祈りし、新年のあいさつといたします。



# 年頭にあたり



美郷町議会議長

伊藤 福章

新年あけましておめでとうござい  
ます。町民の皆様には、それぞれの  
思いを胸に平成十八年の新春を迎え  
られたこととお慶び申し上げますと  
共に、日ごろから議会に対し温かい  
ご理解とご協力を賜り心から感謝申  
し上げます。

昨年を顧みるに国におかれまして  
は、財政再建、税制改革、医療制度  
改革、社会保障改革、国と地方財政  
の三位一体改革など課題を抱えた中  
で郵政民営化法案が参議院で否決さ  
れると、突如として衆議院を解散し  
総選挙が行われたところでした。

私ども議会も合併後十一月の在  
任特例期間の満了に伴い初の町議会  
議員選挙が実施され、二十二名の議  
員誕生のもと十月より真のまちづく  
りのスタートを切ったところでもあ

ります。平成の大合併で県内第一号  
として新しいまちづくりの一步を力  
強く踏み出して一年二カ月、「合併し  
たども何もええことねえな」と言う声  
が聞かれますが、私どもも合併をし  
たならば少しは財政も安定するの  
ではないかと希望をもったところでし  
たが、考えてみますと国と地方の長  
期債務残高が合わせて七百七十四兆  
円(本年度末見込み)であると言われ  
ております。町の起債も債務負担行  
為を合わせ二百四十八億三千万円(十  
六年度末)もの町債があります。今日  
の財政悪化の一因は、一般的に公共  
事業など「あれも、これも」と実施し  
地方債を発行し続けた結果だと言わ  
れており、将来託すことの出来るま  
ちづくりを目指すとしては、このよ  
うな体質は合併を機に改めたいとこ

ろであります。地方分権一括法の施  
行により国と地方は対等の立場とな  
り、地域住民にとって一番身近であ  
る市町村の自立が求められておりま  
す。

自立とは「協働型社会や住民自治の  
確立による地域の選択と責任に基づ  
く自立したまちづくり」の実現であ  
り、自らの責任と判断で実行できる  
体制でなければなりませんと言われて  
おります。言うまでもなくまちづく  
りの主人公は町民であります。地方  
分権の確立により政策決定過程への  
住民参加は今後、ますます重要とさ  
れているところであります。議会と  
しましても地方分権時代に応えうる  
議会活動として、議会自らが地域に  
出て行き町民の声を直接伺う機会な  
ど、議会で協議しながら検討してま  
いりたいと思っております。中央で  
は景気回復への風が吹いているとい  
うのに、地方では未だ右肩下りの  
足踏状態が続いておりますが、今年  
こそは景気回復への風が吹いて来る  
ことを願い、合わせて町民各位のご  
多幸をお祈り申し上げ、新年のあい  
さつといたします。